

起句	01	慈愛こめ一行添へて書く賀状	つぎを
	02	紅茶ポットに若水を汲む	松陽
	03	初富士に向う自転車加速して	七緒
	04	萬両の実のたわわなる辻	以和於
月	05	かの国は月の模様を何と見る	笈羅
折端	06	上へ下へと天地決めかね	恆雄
折立	07	潮境鱈は春を告げる魚	以
恋	08	借家の庭にももの芽萌える	七
	09	バリトンの歌声響く朝寝床	松
	10	遠足の児ら少し迷惑	笈
	11	六月の群雲に乗り鵬翔る	恆
月	12	南海の葦舟洗うスコール	七
	13	鉄格子ゴーン眺める梅雨の月	松
	14	ジャポニスムにも新たな動き	笈
	15	うららかやルノー忽ち駆け去りぬ	以
	16	交（つる）む獣を驚かす宵	恆
花	17	花を折る書生酌婦に咎められ	七
折端	18	鳴く鶯に踊り子はしゃぐ	松
折立	19	風船の野越え山越え何処へ行く	恆
	20	B29の爆音高し	以
	21	次々と干芋吊す軒の先	笈
	22	鳶に紛れるドロンちび丸	七
	23	濁り酒濁れる呑める老教授	以
	24	鬼灯という字のおどろおどろし	恆
	25	白井君中国の床（ゆか）に涙する	松
恋	26	未央（びよう）柳に偲ぶ俳	笈
	27	混浴に入れぬタトゥー金髪の	七
	28	村芝居観る極道の妻	松
月	29	月光の鍵盤濡らす楽の時	恆
折端	30	シューベルト氏の眼鏡のレンズ	以
折立	31	寿ぎの旅の終りは日ものどか	笈
	32	靴を脱ぎ捨て踏青嬉し	恆
	33	立ち雛の真似をして立つ影二つ	以
	34	晴れ着の袖にそつと草餅	笈
花	35	片肌脱ぐタイの僧侶に花の散る	松
	36	弟子も牛馬も哭く涅槃図絵	七